

第30回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 令和3年9月14日（火）14：00～14：20

2. 場 所 オンライン開催

3. 出席者 内閣府
内閣府原子力委員会
上坂委員長、佐野委員、中西委員
内閣府原子力政策担当室
進藤参事官、實國参事官、菊地補佐

4. 議 題

- (1) 上坂原子力委員会委員長の海外出張について
- (2) その他

5. 審議事項

(上坂委員長) 時間になりましたので、第30回原子力委員会定例会議を開催いたします。

本定例会議は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインでの開催となります。

また、本日は、私上坂、佐野委員、中西委員がオンラインでの出席となります。

次に本日の議題ですけれども、一つ目が上坂の海外出張について、二つ目がその他でございます。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

(進藤参事官) 一つ目の議題は上坂原子力委員会委員長の海外出張についてです。

では、事務局より説明をお願いいたします。

(菊地補佐) 事務局、菊地より説明させていただきます。

お手元の資料、原子力委員会資料第1号を御覧いただければと思います。

上坂原子力委員会委員長の海外出張についてということで、9月20日から24日に開催される予定のIAEA総会に上坂委員長が御出張予定でございます。

出張先はオーストリア共和国（ウィーン）。

出張期間につきましては、令和3年9月19日日曜日に出発をして、23日木曜日、日本に到着の予定でございます。

渡航目的については、今ほど申し上げましたように、第65回国際原子力機関（IAEA）総会に出席し、IAEAの幹部、また各国の原子力関係者との意見交換を行うとともに、内閣府主催のサイドイベントに登壇の予定でございます。

日程についてはこの4ポツのところを御参照いただければと思います。

続きまして、今述べましたサイドイベントについて、資料、参考資料の第1号を御覧いただきたいと思います。

今年のIAEA総会に際しまして、「 α 線薬剤の開発とアイソトープの供給－アクチニウム225と国際機関における役割の可能性－」というサイドイベントを開催いたします。

ウィーンでの時間は9月20日の15時から16時20分、日本時間ですと22時から23時20分、オンラインと、ウィーンの国際センターのM6会議室でのハイブリッドの開催を予定しています。

アジェンダについて御紹介させていただきます。初めに上坂委員長より開会挨拶を頂いた後、IAEAの物理化学部門の部長のメリッサ・デネケさんよりスピーチを頂きます。

その後、日本アイソトープ協会専務理事の畑澤先生からプレゼンテーションいただくとともに、スイスからノバルティスファーマの前立腺がんグローバルプログラム長のアンドリュウ・ケイヴィさんからプレゼンテーションを頂きます。

その後、Ac-225の製造・供給についての日本若しくは海外の取組についてということで、量子科学技術研究開発機構、QSTと、あとは日本原子力研究開発機構、JAEA、あと米国のDOE、あとユーラトム、カナダのトライアンプの取組についてそれぞれ御紹介いただきます。

その後、新興国政府によるスピーチということで、南アフリカのプレトリア大学のスティーヴ・ビコアカデミック病院のマイク・サテケさんからスピーチを頂戴します。

最後に、IAEAの核科学・応用学部物理化学部門の課長のオッソさんよりIAEAに期待される取組みということでスピーチを頂いた後、最後に上坂委員長から閉会の挨拶を頂くという段取りになっています。

今現在、一生懸命準備しておりますので、良いものになるように取り組んでまいりたいと思います。

私からは以上です。

(上坂委員長) 説明ありがとうございます。

それでは佐野委員、コメントございましたらよろしく願いいたします。

(佐野委員) 御説明ありがとうございます。

久々に対面の IAEA 総会開催ということで、IAEA 幹部や各国代表との 2 国間の協議、さらにはサイドイベントと盛りだくさんのスケジュールですが、大変よくアレンジされており、事務局、それから関係者の方々の御努力を評価致します。

日程的にも大変ですが、上坂委員長、どうぞよろしく願いいたします。充実な会議であることを祈念しております。

(上坂委員長) それでは中西委員、よろしく願いいたします。

(中西委員) 私も、ものすごく盛りだくさんで、放射線医療の話では、上坂先生より最初から最後まで全部取り仕切られて、メガファーマも来られたり、とうとう放射線医薬品が世界中で動き始めたなという感じがします。

たくさん情報を仕入れて、こちらからも発信できるように上坂先生、よろしく願いいたします。

以上でございます。

(上坂委員長) ありがとうございます。

繰り返しになりますけれども、IAEA 総会でその間、IAEA の幹部、それから各国の原子力部門の要人としっかり会談し、またサイドイベントも成功させていきたいと思えます。

また、当然ですけれどもコロナ禍ですので、安全と衛生には十分注意してやっていきたいと思えます。

それで是非 IAEA の幹部の方や各国の要人の方には日本の原子力の現状をよく説明し、また今後の国際協力に関して意見交換をよくしていきたいと思えます。

それからこのサイドイベントはこの定例会議でも何度か研究者の方から御説明いただきましたけれども、治療と診断両方に使える α 線薬剤はじめの有効薬剤の世界での研究炉と加速器のベストミックス、エネルギーもベストミックスで、RI 製造方法もベストミックスですね。

それによる供給と利用、それを世界の第一線の活躍の方々と IAEA の担当の方、お集まりいただきまして、しっかりと議論したいと思っております。

それから、事務局に質問ですけれども、対面とリモートのハイブリッドということで、こ

これは日本からの参加も可能なのですよね。

(菊地補佐) 可能でございます。

(上坂委員長) もう御存じかと思うのですが、日本原子力学会、日本医学物理学会、日本加速器学会、放射線利用振興協会、核医学会、主要な関連の学会のホームページ・メールで案内させていただいています。日本用プログラムには日本時間が書いてありますね。

日本からリモート出席できるように、日本時間で書いてあるということで、22時ですの
で何とか参加していただきたいなと考えています。

そういうことで、しっかりと短い期間ではありますけれども、最大限役目を果たしてい
きたいと存じます。

ほかに委員の方々から御意見やコメント、ございますでしょうか。

(佐野委員) ございません。

結構です、よろしく申し上げます。

(上坂委員長) ありがとうございます。

それでは以上が議題1でございます。

では議題2について事務局から説明をお願いいたします。

(進藤参事官) 議題の2、その他でございますけれども、本日の定例会議資料第2号を今から
投影をさせていただきます。

7月に原子力委員会決定をいたしました令和2年度版原子力白書の英語版のサマリーを作
成いたしましたので、事務局より御説明をお願いいたします。

(實國参事官) それでは事務局より説明いたします。

お手元にお配りしております令和2年度版原子力白書のサマリーの英語版を作成いたしま
した。

1枚めくっていただきまして、構成としましては、Special Reportと、C
h a p t e r 1からChapter 8までの章立てという形になっております。

Special Reportについては、今回の特集が東電福島第一原発事故から10
年を迎えてということなので、今回の特集の一つの目的である福島の今をしっかりと伝えて
いくという趣旨から、今回の英語版に当たっても、まず福島の今を伝えるということを前
面に出しております。

それから、Chapter 1からChapter 8までにつきましては、以前の原子力委
員会定例会でも御説明いたしましたが、原子力白書の概要紙に基づきまして英訳をしてお

ります。

ざっと御覧いただきたいのですけれども、Special Reportの4ページ以降になります。

まず、福島現状ということで、内容は全部書いてあることと当然のことながら同じなのですけれども、空間線量率の話は4ページと5ページで説明するとともに、6ページでは復興の状況、7ページでは農林水産物や食料品の基準値の話と、こういうものを紹介しております。

8ページでは、イノベーション・コースト構想という新しい産業の取組を紹介しております。

9ページでは、福島の復興の状況ということを紹介しておりますが、ここでは海外の輸入制限の話などを紹介しております。

10ページでは、福島第一原発の敷地内の状況ということで、現在の状況を紹介しております。

12ページでは、事故を踏まえて、この10年間で関係機関などが行ってきた取組、そういうものを紹介しております。

14ページでは、原子力白書の日本語版に載せている原子力委員会のメッセージの英訳を載せております。

15ページ以降は、日本語版の第1章から第8章までに基づく概要紙を英訳したのになりますので、説明は割愛させていただきます。

英訳版の説明は以上になります。

この原子力白書の英訳版を活用して、国際的にも福島の現状をしっかりと伝え、また原子力委員会のメッセージもしっかり国内外に伝えていきたいと考えています。

以上です。

(上坂委員長) ありがとうございます。

それでは佐野委員、よろしく、コメント、御意見を願います。

(佐野委員) 御説明ありがとうございました。

今年、福島後10年ということで原子力白書でも福島を特集したわけですが、その特集を中心に原子力白書の骨子を紹介する英語版を作ることは、大変有益な試みだと思います。

特に世界各国あるいは世界の人々が福島に対して持っているバイアス、事故直後の風評などを客観的なデータを持って、修正していこうという努力で、是非これを各国の関係者、

研究者、学生、知識人になるべく広報して、正しい認識を持っていただきたいと思います。

準備された事務局の方、どうもありがとうございました。

(上坂委員長) ありがとうございます。

それでは中西委員、よろしく願いいたします。

(中西委員) この英語版については、以前も話題になりましたけれども、非常に見やすく、毎回こういうようなのができていればよかったのかなと思います。

今回は、特に福島のことでも世界中の人が関心の高い部分を非常にうまくまとめてくださって、今どういう状況かというのが、これを見れば大体ダイジェストで分かると思います。

本当に事務局の方、御苦労さまでした。

上坂委員長もこれを配られると多くの方からいろいろなことを言われるのではないかと思います、いい方向のコメントだと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

(上坂委員長) 中西委員、ありがとうございます。

I A E A 総会でも、この白書の英語概要を、I A E A の各代表的部署、それから各国の要人の方々に配布、配信していきたいと思います。

そして今、コメントにありましたように、この特集は福島事故の教訓と、それから福島の復興が進んでいる現状もしっかり書いてある。福島から始まり、そして原子力安全を強調していく。それが日本の原子力の始まり、そこが原点であるということは強調してあります。本当に日本の原子力に対するスタンスがここに凝縮されていると思いますので、しっかりと宣伝していきたいと思います。

また、国内では既に8月31日の原子力学会でこの白書の説明会があり、ウェビナーで多くの方が参加されました。一部の学会誌にはもう解説が載っています。特集の福島の現状と教訓について、原子力安全から入っているという点を高く評価いただいております。風評の問題もありますので、その問題解決に向けてもこの概要を配布・宣伝・発信し、よく説明してまいりたいと思います。

それでは、委員からほかに御発言ございますでしょうか。

(佐野委員) ございません。

(中西委員) 特にありません。

(上坂委員長) ありがとうございます。

それでは、次の議題2について事務局から説明をお願いします。

(進藤参事官) 議題2、その他の続きでございます。

次回の会議予定について御案内いたします。

次回の開催につきましては、9月28日火曜日、14時からオンライン会議で開催いたします。

議題については調整中であり、原子力委員会のホームページ等の開催案内をもってお知らせいたします。

(上坂委員長) ありがとうございます。

それでは、全般で委員の方々から何か御発言ございますでしょうか。

(佐野委員) 特にございません。

(上坂委員長) それでは御発言ないようですので、これで本日の委員会を終了いたします。

どうもありがとうございました。

(佐野委員) ありがとうございました。

(中西委員) どうもありがとうございました。